

### 第76回国民体育大会近畿ブロック大会 総括 結果

#### 【成年男子】(びわこ成蹊スポーツ大学)

新型コロナウイルスの影響により、7月19日(月)から活動が停止となり、再開したのは8月2日(月)。5日間という短い準備期間を経て迎えた大会であった。

決してコンディションがベストな状態ではない中で、学生とは違った独特なやりしさを持つ社会人相手に、35分ハーフというレギュレーションをどう戦い抜くかがポイントとなった。ボールを保持する時間を増やし、隙を見て前進していくという点では2試合とも決して悪くなかった。守備においては引き込んだ位置でブロックを組み、無駄な消費を避けることを心がけたが、特に2日目の大阪府との試合では連戦の疲れと暑さから集中力を奪われ、決定機をものにできず、ミスからのボールロストが増え守備で走らされるが多かった。その結果、後手を踏む場面や無駄なファールが増え、試合終盤には自陣深くで与えたFKから耐え切れず逆転ゴールを許した。社会人の勝負強さを感じる試合となった。

結果 1回戦 滋賀 2 - 0 奈良  
代表決定戦 滋賀 1 - 2 大阪

#### 【成年女子】(聖泉大学)

コロナ禍の影響もあり、今年度は聖泉大学のみチーム構成となった。怪我人が多発した影響もありながら、大学の活動指針で制限や大学のテスト期間に試合ということも重なり、調整が思うように出来なかった。どの府県も勝負しているという実感。これまで以上に県の女子サッカーレベルを上げて戦う必要性を感じた。次年度以降に活かせるよう女子委員会でも共有できるところは共有していきたい。

結果 1回戦 滋賀 2 - 1 和歌山

#### 【少年男子】(滋賀選抜)

今年は新型コロナウイルス感染症の影響下においても近畿ブロック大会が開催されたことに感謝をしながら臨んだ大会であった。しかし、実際の活動は非常に難しく、隣県の緊急事態宣言により選出した選手がそろわない中でトレーニングはできることが限られており、少人数トレーニングでは実際の選手の特徴や能力が図りづらく、戦い方のイメージがなかなか決められずに進んだ。さらに、関西TCLも4~6月は実施できなかったため、チームコンセプトや戦い方の実践における落とし込みは困難を極め、チーム作りは難航した。

7月に入り、関西TCL交流戦や新潟遠征を経験し、試合を重ねていくことで少しずつチームは機能し始め、トレーニングも充実し始めた。選手同士のコミュニケーションも増え、やはり選手とスタッフ、また選手同士の関わりやすさはチーム力に大きく影響することを改めて感じた。

結果は伴わなかったが、戦い方に関しては堅守速攻のスタイルである程度の成果は得られたと感じる。先ほど述べたが、やはり2025年に向けて良い準備をするためには、ターゲットエイジを継続して指導し、数年間をかけてチームを育成し、成熟させていく必要がある。今年の三重県の選手は7年間同じスタッフで見守ってきたと伺い、実際にチームとして素晴らしかった。U-16を4月からの数カ月でチームにするのは難しく、タレントのそろった2府1県にはなかなか太刀打ちできないのが現状であるため、今後の早急な課題として検討していく必要がある。

結果 1回戦 滋賀 1 - 2 兵庫

### 全国大会中止

- JFAバーモンドカップ第31回全日本U-12フットサル選手権大会 (8/27~29 東京) DCM セントラル シガ
- 第17回全日本大学フットサル大会 (8/27~29 大阪) 立命館大学All.1
- 第57回全国社会人サッカー選手権大会 (10/9~13 栃木) 守山侍2000

以上のチームは県内・関西大会を勝ち抜き全国大会の出場権を得ておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって大会が中止されました。今後の活躍を期待いたします。



# Soccer News SHIGA

〒524-0212 滋賀県守山市服部町2439番地 TEL:077-585-0982 FAX:077-585-0983

2021.10 No.63

発行 公益社団法人 滋賀県サッカー協会  
責任者 専務理事 前田 康一  
shigafa@oregano.ocn.ne.jp  
http://www.shigafa.com/

## 未来へ向けての確かな歩みを!

公益社団法人 滋賀県サッカー協会(SFA) 会長 森津 陽太郎



新型コロナウイルスの心配な状況は続いています。ワクチン接種が進んでいるもののまだまだ安心してサッカーが行える状況ではありません。2年連続で国民体育大会は中止となりました。県内でもいろいろな大会が中止や延期を余儀なくされています。どうか感染拡大防止の取り組みは引き続きよろしくお願いいたします。

昨年、1月に滋賀県サッカー協会創設70周年の記念式典・祝賀会を行い、70年という歴史の重みを感じると共に新しいスタートを切る必要性を訴えさせていただきました。今年には日本サッカー協会が100周年を迎えました。9月10日に行われたJFA100周年セレブレーションでは田嶋会長が「未来への布石を打ってくださった皆様に感謝しなければなりませんし、私たちもこれからの100年に向けて布石を打ち続けていかなければならない」と未来への決意を述べられました。日本サッカー協会と歩調を合わせながらも、滋賀県サッカー協会としては、滋賀県サッカー協会の強みを伸ばすと共に滋賀県独自の課題にも積極的に取り組まなければなりません。

今年はオリンピック・パラリンピックの年でもありました。オリンピックでのサッカー競技は男女ともメダルに届かず残念な思いをしました。この新型コロナの感染状況でオリンピックやパラリンピックの開催についてはいろいろな意見がありました。結果としてほとんどの競技が無観客での開催となりました。しかし、そんな中でもTV放送を通じての選手たちの活躍は素晴らしいものがありました。いろいろな競技で滋賀県出身の選手の活躍があったことは滋賀県民としてうれ

しく思いました。また、特にパラリンピックに出場した選手の活躍には感動を覚えました。ほとんどの選手の皆さんが試合後のインタビューでこのような状況の中で開催していただいたことや周囲の方々への感謝を述べておられました。我々もスポーツができることへの感謝の気持ちを忘れず、未来へ向けて確かな歩みを進めることの大事さを感じたところです。

滋賀県サッカー協会としても改めて『サッカー競技の普及・発展を図ると共に、県民の豊かなスポーツ文化の振興、心身の健全な発達に寄与する』という滋賀県サッカー協会の理念に基づき、フェアプレーやリスペクト、暴力・暴言の根絶などを浸透させ、滋賀の将来に向けて『豊かなスポーツ文化の確立』『サッカーの普及・発展』にも協会関係者が一致協力して引き続き努力を続けていくことが大事だと思っております。

たちまちは、2025年には2巡目の国民スポーツ大会が滋賀県で開催されます。国民スポーツ大会で活躍できる選手の育成強化に各種別、連盟など滋賀県サッカー協会が一致団結して進めていきたいと思っております。今後も皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。



## 天皇杯JFA第101回全日本サッカー選手権大会を終えて

びわこ成蹊スポーツ大学サッカー部 コーチ 角屋 諒

びわこ成蹊スポーツ大学サッカー部は、第26回滋賀県サッカー選手権で4年ぶりに優勝を果たし、待望の天皇杯への出場権を手にすることができました。滋賀県を代表して戦う本戦の1回戦では、関西学生サッカーリーグで鎬を削る兵庫県代表・関西学院大学と対戦しました。前半開始から終始相手にゲームを支配され、耐える展開が続いていましたが、前半終了間際のアディショナルタイムについに失点を喫してしまいました。後半にも相手に追加点を許し、0対2で敗れました。

今回の敗戦で得られた教訓は「日常の質を向上させることが重要である」ということです。関西学院大学とは1カ月前の前期リーグでも対戦していましたが、その前回対戦時とは明らかに別のチームになっていました。だからこそ我々もこの敗戦から学び、日常の質を向上させる

ことで、来年もこの舞台に戻ってきたいと思います。

コロナ禍で大会を開催していただくことにご尽力いただいたすべての方々、常日頃からご支援をいただいている滋賀県サッカー協会をはじめとする関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。



## 全国高等学校総合体育大会（インターハイ）を終えて

比叡山高校

我々比叡山高校サッカー部は、令和3年度全国高等学校総合体育大会（輝け君の汗と涙、北信越総体2021）男子サッカー競技に出場し、初の全国大会出場となりました。

昭和33年に創部以来全国大会への出場は一度もありません。滋賀県大会決勝への進出は過去何度か記録しておりますがあと一步のところまで涙をのみ続けてきました。

沢山の悔しい思いをしてきたOBOG、その保護者の方々、また、選手を育て送って頂きました3種チームの皆様、サッカー選手としての土台を作って頂きました4種チームの皆様、生徒の日常を指導して下さっている学校関係者の皆様、毎回応援メッセージをくれるスクール生の皆様、深夜遅くまで相手チームの分析など選手のサポートしてくれたスタッフ。そして最後まであきらめずに努力を続けた現部員、保護者の皆様。全員が「繋が

り」というキーワードのもと一致団結し勝ち取った優勝、全国大会初出場の切符でした。

8月15日（日）1回戦の対戦相手は岡山県代表岡山学芸館高校。中国プリンスリーグでも上位につけるハイレベルな相手に対し、立ち上がりからいつも通りアグレッシブな攻守で相手を押込み開始早々セットプレーから先制点をあげました。その後は岡山学芸館のテンポの良いパスワークに押し込まれる時間帯が続き、前半半ばに失点。前半を1-1で折り返しました。後半は前線から積極的にボールを奪いに行くことは変えず、トリプルボランチ、ウイングバックのポジショニングに修正をかけ、相手ボランチからのチェンジサイドを封じるポジショニングを意識。中盤でのボール奪取が増え、ショートカウンターから相手ゴールに迫る場面も増えました。めまぐるしく攻守が入れ替わる中、結局後半で決着がつかず、勝敗はPK戦に委ねられました。決めれば勝利という場面まで

いきましたが、キックミス。7人目のキックもストップされ、トータルスコア1-1（PK4-5）であえなく敗退となりました。立ち上がりの時間帯で積極的に主導権を握り、ゲームプランの範囲の中で試合を運ぶことに成功しましたが最終的には次のステージに進むことはできませんでした。今大会の経験を活かし、日々のトレーニング強度の向上、会場インからゲーム、会場アウトまでのプランをより洗練させ、冬の全国高校サッカー選手権大会では全国の舞台で勝ち進んでいけるように成長し



ていきたいと思います。

最後になりましたが、大会運営関係者の皆様、コロナ禍の運営が大変難しい中、多大なご尽力を頂き大会を開催して頂きましたこと大変感謝申し上げます。また滋賀県サッカー協会をはじめ、滋賀県競技力向上対策本部、

## JFA第8回全日本U-18フットサル選手権大会に出場して

近江高校

今年もコロナウイルスによる活動停止などがある状況で大会を運営いただいた皆様、対戦チームの皆様、本当にありがとうございました。

近江高校サッカー部はこの度、初のJFA第8回全日本U-18フットサル選手権大会出場をしました。2・3年生のメンバーで大会に挑み、普段のサッカーとは違う戦い方をする相手チームに対して苦戦の連続でした。トリックプレーやセットプレー、ゲームスピードの早さに対応することが失点を圧倒的に減らすポイントになると思うのですが、選手たち自身がゲームの中で対応したり、ベンチの選手のコーチングで対応したりすることで粘り強い守備を形成することができたと思います。全国大会のグループリーグ聖和学園戦では相手の局面打開力が高く0-3で押し込まれてしまいました。ですが、毎日の練習の中で培ってきたオフ・ザ・ボールの動き出しとダイレクトプレーやドリブルでマークを剥がすことでチャンスを創り出し、4-3で逆転勝利することができました。決勝トー

ナメントに進出し、全国ベスト8という結果を残すことができ大変嬉しく思います。県予選からの厳しく長い道のりの中で、選手たちの主体的に最後まで諦めずに取り組む姿勢がみられ、選手たちの成長を実感できる大会となりました。10月からは全国高校サッカー選手権大会の滋賀県予選がはじまります。コロナ禍ではありますが、サッカーができることに感謝と喜びを噛み締め、優勝目指して一戦一戦全力で挑みたいと思います。



## 第45回総理大臣杯全日本サッカートーナメントを終えて

びわこ成蹊スポーツ大学サッカー部 コーチ 角屋 諒

関西学生サッカー選手権大会においてベスト4に進出し、総理大臣杯への出場を決めた本学サッカー部。8月23日に迎えた1回戦では、東京都リーグ1部所属の山梨学院大学と対戦しました。新型コロナウイルスの影響で継続的な練習ができず迎えたこの一戦はコンディションの影響も大きく、前半は内容的にも圧倒され、引水タイムまでに2失点を喫する苦しい展開となりました。後半は

一変し、本学が攻撃的に押し込む展開が増えました。すると53分にDF25川崎の縦パスが起点となり、最後はMF7藤原のゴールで一点を返しました。しかし、あと一点が遠く無念の敗退となりました。

本学が敗れた山梨学院大学がベスト4に進出し、台風の目となった第45回大会。ベスト4を関東勢が占める構造は前回の第43回大会と同様ですが、関東勢との「差」は小さくなってきていると感じられました。しかし、全国大会のようなレベルの高い大会では小さな「差」がより重要となります。このあと一步を埋めるべく、日々研鑽し、関西学生サッカーリーグで優勝して全日本サッカー選手権において悲願の日本一に再挑戦します。

コロナ禍で大会を開催していただくことにご尽力いただいたすべての方々、常日頃からご支援をいただいている滋賀県サッカー協会をはじめとする関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

